

第4章

「歴史資産」に関するこれまでの取組

・本市におけるこれまでの「歴史資産」に関する取組は以下の6項目に分類される。

- (1) 「地域の歴史文化を活かしたまちづくり事業」を活用した市内19地区における市民主体の取組
- (2) 学術調査や文化財総合把握調査等の調査・研究に係る取組
- (3) 指定等の推進や防災・防犯対策等の保存・管理に係る取組
- (4) 「歴史資産」の整備や公開・情報発信、古民家再生などの活用の取組
- (5) 学校教育や生涯学習、古民家再生ボランティア活動などの担い手に係る取組
- (6) 大学との連携などの体制づくりに係る取組

4-1. 市内19地区における市民主体の取組

本市では、歴文構想策定後、「地域の歴史文化を活かしたまちづくり事業」（以下、「まちづくり事業」という）を実施する団体に助成を行っている。自治会やまちづくり協議会、特定の「歴史資産」を活用する「八上城麒麟がくる委員会」などの団体が、助成金を活用して活発な取組を進めている。これらの取組は、地区で考え、行動し、「歴史資産」の保存・活用を通じた市民主体のまちづくりにつながっている。

表4-1はこれまでにまちづくり事業を実施している団体の活動対象の地区別一覧である（助成団体の詳細は別添資料を参照）。やや偏りのあるものの、多くの地区で助成金を活用したまちづくり事業が行われている。

表4-1 まちづくり事業の実施団体一覧

| 地区名 | 実施団体数 | 団体名 |
|------|-------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 篠山 | 6 | 西新町自治会 / 西町自治会 / 丹波篠山・まちなみアートフェスティバル実行委員会 / 篠山将棋クラブ / かがみプロモーション / 篠山春日神社祭礼保存会 |
| 八上 | 2 | 八上校区まちづくり協議会 / 八上城麒麟がくる委員会 |
| 畑 | 2 | みたけの里づくり協議会 / 般若寺の史跡を守る会 |
| 城北 | 3 | 北沢田自治会 / NPO 法人集落丸山 / 熊谷自治会 |
| 岡野 | 2 | 岡野ふるさとづくり協議会 / 西浜谷自治会 |
| 日置 | 2 | 上宿自治会 / 辻を知ろう歩こう会 |
| 後川 | 1 | 後川郷づくり協議会 |
| 雲部 | 0 | — |
| 福住 | 2 | 熊野新宮神社氏子 / 福住地区まちづくり協議会 |
| 村雲 | 2 | 村雲まちづくり協議会 / 小田中自治会 |
| 大芋 | 1 | 藤坂自治会 |
| 西紀南 | 2 | 西紀南まちづくり協議会 / 黒田自治会 |
| 西紀中 | 2 | 西紀中地区里づくり協議会 / 宮田自治会 |
| 西紀北 | 3 | 遠方八坂神社改修工事委員会 / 郷遊会 / 春日神社国登録有形文化財報告会実行委員会 |
| 大山 | 4 | 大山郷づくり協議会 / 大山昔ばなしの会 / 追入自治会 / 大山宮天然物保存会 |
| 味間 | 2 | 味間地区まちづくり協議会 / 味間奥自治会 |
| 城南 | 1 | 城南地区まちづくり協議会 |
| 古市 | 1 | 古市地区まちづくり協議会 |
| 今田 | 2 | 小野原住吉神社神舞保存会 / 宗教法人 和田寺 |
| 複数地区 | 5 | 伊能忠敬笹山嶺探索の会 / TEAM Re Born 篠山線 / 丹波篠山ひなまつり実行委員会 / 多紀連山のクリンソウを守る会 / 関西大学校友会 篠山支部 |

4-2. 調査・研究に係る取組

4-2-1 種別の把握調査及び詳細調査の実施状況

本市ではこれまで、「歴史資産」に係る様々な調査を実施してきた。下記に分野別にその概要と今後必要となる調査を整理した。

(1) 有形文化財（建造物）

有形文化財（建造物）のこれまでの調査の成果は表 4-2 にまとめられる。歴文構想策定時にはこれらの資料及び町史（篠山町史・丹南町史・西紀町史・今田町史）、宗教法人名簿、兵庫県神社誌をもとにこれまでに把握された「歴史資産」を整理した。さらに市全域を対象として茅葺民家及び門、灰屋、瓦葺建築物の分布調査を実施した。これらの調査により、市域の歴史的な建造物はおおよそ把握されてきたが、調査から一定の年月が経っているものもあるため現況調査の実施が求められる。

表 4-2 有形文化財（建造物）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|----|----------|----------------------------------|------------------|---------|
| 1 | 詳細 | 重要文化財大国寺本堂修理工事報告書 | 重要文化財大国寺本堂修理委員会 | 昭和 41 年 |
| 2 | 把握 | 兵庫の近世社寺建築—兵庫県近世社寺建築緊急調査報告書— | 兵庫県教育委員会 | 昭和 55 年 |
| 3 | 詳細 | 重要文化財長谷寺妙見堂保存修理工事報告書 | 重要文化財長谷寺妙見堂修理委員会 | 平成 2 年 |
| 4 | 把握 | 今田の道標 | 今田町教育委員会 | 平成 7 年 |
| 5 | 把握 | 今田の祭祀神と神社の石造物 | 今田町教育委員会 | 平成 10 年 |
| 6 | 把握 | 丹南町の石造物 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成 11 年 |
| 7 | 把握 | 西紀町の石造物 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成 11 年 |
| 8 | 把握 | 神社実態調査報告書(二)—摂丹地区編— | 兵庫県神社庁 | 平成 12 年 |
| 9 | 把握 詳細 | 兵庫県の近代化遺産—兵庫県近代化遺産(建造物等)総合調査報告書— | 兵庫県教育委員会 | 平成 19 年 |
| 10 | 把握 詳細 | 兵庫県の近代和風建築：兵庫県近代和風建築総合調査報告書 | 兵庫県教育委員会 | 平成 26 年 |
| 11 | 詳細 | 春日神社本殿調査 | 春日神社 | 平成 26 年 |
| 12 | 詳細 | 今村家住宅調査 | ひょうごヘリテージ機構 | 令和元年 |

(2) 有形文化財（美術工芸品）

有形文化財（美術工芸品）のこれまでの調査の成果は表 4-3 にまとめられるのみであり、把握調査はこれまでに実施されていない。特に、古文書や典籍などは所在や内容が明らかでないものが多いため、今後の把握調査が求められる。

表 4-3 有形文化財（美術工芸品）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----|---------------|----------|---------|
| 1 | 詳細 | 園田家文書目録 | 今田町教育委員会 | 平成 10 年 |
| 2 | 詳細 | 和田寺文書集成 | 今田町教育委員会 | 平成 11 年 |
| 3 | 詳細 | 善導寺木造薬師如来坐像調査 | 善導寺 | 平成 25 年 |
| 4 | 詳細 | 文保寺木造金剛力士立像調査 | 文保寺 | 平成 29 年 |

(3) 無形文化財

これまでに丹波県民局により、民俗芸能の把握調査が実施されている。今後も引き続き地域に残る芸能や工芸の把握調査が必要である。

表 4-4 無形文化財の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----|----------------------------------------|-------|---------|
| 1 | 把握 | 丹波（篠山市・丹波市）地域民俗芸能調査報告書～丹波地域民俗芸能の現状と課題～ | 丹波県民局 | 平成 19 年 |

(4) 民俗文化財（有形の民俗文化財）

民俗文化財（有形の民俗文化財）のこれまでの調査成果は表 4-5 のとおりであり、全市を対象とした民俗芸能に関連する道具等が把握されているほか、窯業関連の調査が実施されている。今後は、生活文化に係る道具類の把握調査等が求められる。

表 4-5 民俗文化財（有形の民俗文化財）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----------|----------------------------------------|----------|---------|
| 1 | 把握 詳細 | 丹波の窯業－今田町立杭を中心に－ 民俗資料調査報告書 | 今田町教育委員会 | 昭和 50 年 |
| 2 | 把握 | 丹波（篠山市・丹波市）地域民俗芸能調査報告書～丹波地域民俗芸能の現状と課題～ | 丹波県民局 | 平成 19 年 |

(5) 民俗文化財（無形の民俗文化財）

民俗文化財（無形の民俗文化財）のこれまでの調査の成果は表 4-6 にまとめられる。歴文構想策定時にはこれらの資料及び町史（篠山町史・丹南町史・西紀町史・今田町史）、『丹波のむかしばなし（一～九）』をもとにこれまでに把握された「歴史資産」を整理した。

これらの調査により、市域の民俗文化財はおおよそ把握されてきたが、調査から一定の年月が経っているものもあるため現況調査の実施が求められる。また、家庭での年中行事、食文化などは十分把握調査が行われていないため、今後優先的に調査を実施する必要がある。さらに、今後継続が難しくなる祭礼や行事の増加が予測されることから、映像による記録保存等も推進する必要がある。

表 4-6 民俗文化財（無形の民俗文化財）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----------|----------------------------------------|-----------|---------|
| 1 | 把握 詳細 | 兵庫の民俗芸能 | 兵庫県教育委員会 | 昭和 51 年 |
| 2 | 把握 | 兵庫県の諸職：兵庫県諸職関係民俗文化財調査 | 兵庫県教育委員会 | 昭和 63 年 |
| 3 | 把握 詳細 | 兵庫県の民俗芸能－民俗芸能レッドデータブッカー | 兵庫県教育委員会 | 平成 9 年 |
| 4 | 把握 | にしきの歳時記 | 西紀町郷土史研究会 | 平成 10 年 |
| 5 | 把握 | 今田めんめの歳時記 | 今田町教育委員会 | 平成 11 年 |
| 6 | 把握 | 丹波（篠山市・丹波市）地域民俗芸能調査報告書～丹波地域民俗芸能の現状と課題～ | 丹波県民局 | 平成 19 年 |
| 7 | 詳細 | 丹波の曳山祭礼－波々伯部神社と川原住吉神社をめぐる－ | 兵庫県教育委員会 | 平成 20 年 |
| 8 | 詳細 | 春日神社祭礼調査 | 篠山市 | 平成 28 年 |
| 9 | 把握 詳細 | 兵庫県の祭り・行事：兵庫県の祭り・行事調査報告書 | 兵庫県教育委員会 | 令和 2 年 |

(6) 記念物（遺跡）

昭和35～37年（1960～1962）に実施された全国的な埋蔵文化財包蔵地の分布調査によって、市域の遺跡はおおよそ把握されている。本市では、表4-7にまとめられるように開発等に伴う発掘調査が実施されてきた。今後も引き続き、各遺跡の詳細調査の推進が求められる。

表4-7 記念物（遺跡）の既存の調査成果(1/3)

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|----|----------|----------------------------------------|----------------|-------|
| 1 | 詳細 | 西山北古墳調査報告書 | 多紀郡教育事務組合教育委員会 | 昭和47年 |
| 2 | 詳細 | 波賀尾群集墳分布調査報告書 | 多紀郡教育事務組合教育委員会 | 昭和48年 |
| 3 | 詳細 | 雲部藤岡山遺跡予備調査報告書 | 多紀郡教育事務組合教育委員会 | 昭和48年 |
| 4 | 把握 | 篠山・多紀町の古墳 | 多紀郡教育事務組合教育委員会 | 昭和49年 |
| 5 | 詳細 | 篠山城大手馬出跡予察調査報告 | 大阪経済法科大学 | 昭和55年 |
| 6 | 詳細 | 丹波・口阪本遺跡 団体営圃場整備事業に伴う発掘調査概要 | 西紀丹南町教育委員会 | 昭和56年 |
| 7 | 詳細 | 大滝二号古墳 | 西紀・丹南町教育委員会 | 昭和56年 |
| 8 | 把握 | 兵庫県の中世城館・荘園遺跡一兵庫県中世城館・荘園調査緊急調査報告一 | 兵庫県教育委員会 | 昭和57年 |
| 9 | 詳細 | 雲部車塚古墳 道路改良工事に伴う周庭帯の発掘調査報告書 | 篠山町教育委員会 | 昭和59年 |
| 10 | 詳細 | 丹波国大山荘現況調査報告1 | 西紀・丹南町教育委員会 | 昭和60年 |
| 11 | 詳細 | 西紀町埋蔵文化財概要集 近畿自動車道舞鶴線を中心に | 西紀丹南町教育委員会 | 昭和61年 |
| 12 | 詳細 | 丹波国大山荘現況調査報告2 | 西紀・丹南町教育委員会 | 昭和61年 |
| 13 | 詳細 | 丹波国大山荘現況調査報告3 | 西紀・丹南町教育委員会 | 昭和62年 |
| 14 | 詳細 | 篠山藩窯王地山焼陶器所跡 宅地造成工事に伴う発掘調査概要報告書 | 篠山町教育委員会 | 昭和63年 |
| 15 | 詳細 | 丹波国大山荘現況調査報告4 | 西紀・丹南町教育委員会 | 昭和63年 |
| 16 | 詳細 | 西浜谷下小西ノ坪遺跡 宅地造成工事に伴う発掘調査概要報告 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 17 | 把握 詳細 | 篠山町遺跡詳細分布調査報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 18 | 詳細 | 篠山城武家屋敷跡 マンション「コーポ青山」建設に伴う発掘調査報告1 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 19 | 詳細 | 篠山城武家屋敷跡 丹波杜氏記念館新築工事に伴う発掘調査報告2 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 20 | 詳細 | 矢代寺下ノ坪遺跡 ユニピアささやま駐車場造成工事に伴う調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 21 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡 たんば田園交響ホール建設に伴う調査概要報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成元年 |
| 22 | 詳細 | 丹波国大山荘現況調査報告5 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成元年 |
| 23 | 詳細 | 長者ヶ谷1号墳 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成元年 |
| 24 | 詳細 | 玉水・篠山城北濠端 花と緑のモデル事業実施に伴う発掘調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成2年 |
| 25 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第5次調査 旅館播磨屋改築工事に伴う発掘調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成2年 |
| 26 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第6次調査 大福堂店舗新築工事に伴う発掘調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成2年 |
| 27 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第8次調査 明治生命保険相互会社事務所改築工事に伴う調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成3年 |
| 28 | 詳細 | 史跡篠山城跡二の丸石垣保存修理事業報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成3年 |
| 29 | 詳細 | 上小野原地区圃場整備事業に伴う発掘調査概要報告書 | 今田町教育委員会 | 平成3年 |
| 30 | 詳細 | 西谷遺跡発掘調査概要報告書 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成3年 |
| 31 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡発掘調査の概要第1次～第15次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成4年 |
| 32 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第11次調査・第13次調査・第14次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成4年 |

表 4-7 記念物（遺跡）の既存の調査成果(2/3)

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|----|----------|--------------------------------------------|-------------|-------|
| 33 | 詳細 | 大山荘内埋蔵文化財調査概要報告書 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成4年 |
| 34 | 把握 詳細 | 山陰道：歴史の道調査報告書第三集 | 兵庫県教育委員会 | 平成5年 |
| 35 | 詳細 | 史跡篠山城跡第17次調査 下水道管埋設に伴う発掘調査報告 | 篠山町教育委員会 | 平成5年 |
| 36 | 詳細 | 教育の森構想に伴う遺跡確認調査概要報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成5年 |
| 37 | 詳細 | 黒田坪墳墓群 | 篠山町教育委員会 | 平成5年 |
| 38 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第21次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成5年 |
| 39 | 把握 | 丹南町遺跡分布地図 国庫補助事業遺跡詳細分布調査事業 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成5年 |
| 40 | 詳細 | 大師山6号墳・宮田1号墳発掘調査概要報告書 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成5年 |
| 41 | 詳細 | 史跡篠山城跡第18次調査・第10次調査・第7次調査 篠山城旧三の丸跡第28次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成6年 |
| 42 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第27次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成6年 |
| 43 | 詳細 | 今田町団体営園場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 | 今田町教育委員会 | 平成6年 |
| 44 | 詳細 | 史跡篠山城跡二の丸発掘調査報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成7年 |
| 45 | 詳細 | 史跡篠山城跡第22次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成7年 |
| 46 | 把握 | 西紀町遺跡分布地図 | 西紀・丹南町教育委員会 | 平成7年 |
| 47 | 詳細 | 西谷古墳・西谷台状墓 | 篠山町教育委員会 | 平成8年 |
| 48 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第31次・32次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成8年 |
| 49 | 詳細 | 福井谷3号墳 | 篠山町教育委員会 | 平成8年 |
| 50 | 詳細 | 殿町地区遺跡確認調査報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成8年 |
| 51 | 把握 | 今田町の中世城館 | 今田町教育委員会 | 平成9年 |
| 52 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第36次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成9年 |
| 53 | 詳細 | 史跡篠山城二の丸登り口他発掘調査概要報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 54 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第43次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 55 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第44次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 56 | 詳細 | 北条遺跡 ハートピア北条団地造成工事に伴う発掘調査報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 57 | 詳細 | 御下屋敷跡 兵庫医科大学篠山病院外来診療棟建築に伴う発掘調査 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 58 | 把握 | 篠山町遺跡地図及び地名表 | 篠山町教育委員会 | 平成10年 |
| 59 | 詳細 | 和田寺山・西光寺山 今田町の山岳寺院遺跡 | 今田町教育委員会 | 平成10年 |
| 60 | 詳細 | 史跡篠山城跡天守台石垣修理工事報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 61 | 詳細 | 史跡篠山城跡整備基本構想 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 62 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡発掘調査報告書 個人住宅建築に伴う第47・49から56次調査 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 63 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡 車庫及び倉庫建築に伴う第48次発掘調査 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 64 | 詳細 | 鞍塚古墳 宅地造成工事に伴う発掘調査概要報告書 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 65 | 詳細 | 御下屋敷跡第2次調査 兵庫医科大学篠山病院看護婦宿舍棟及び研修医棟建築に伴う発掘調査 | 篠山町教育委員会 | 平成11年 |
| 66 | 詳細 | 県営園場整備事業及び一般開発に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告書 | 今田町教育委員会 | 平成11年 |
| 67 | 詳細 | 丹波焼：遺跡探査による埋蔵文化財調査報告書 | 今田町教育委員会 | 平成11年 |
| 68 | 詳細 | 史跡篠山城跡二の丸庭園跡発掘調査概要報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成12年 |
| 69 | 詳細 | 戦国・織豊期城郭論—丹波国八上城遺跡群に関する総合研究— | 八上城研究会 | 平成12年 |
| 70 | 詳細 | 岩崎遺跡：宅地造成工事に伴う発掘調査概要報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成12年 |
| 71 | 詳細 | 篠山城旧三の丸跡第60次調査 都市計画道路城西線工事に伴う発掘調査 | 篠山市教育委員会 | 平成14年 |
| 72 | 詳細 | 西谷ノ坪遺跡 西紀運動公園（仮称）建設に伴う発掘調査 | 篠山市教育委員会 | 平成14年 |
| 73 | 詳細 | 八上城・法光寺城跡調査報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成15年 |

表 4-7 記念物（遺跡）の既存の調査成果 (3/3)

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|----|----|---------------------------------------|------------|---------|
| 74 | 詳細 | 下立杭古窯跡範囲確認調査概要報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成 16 年 |
| 75 | 詳細 | 史跡八上城跡保存管理計画策定報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成 18 年 |
| 76 | 詳細 | 史跡篠山城跡：内堀石垣復元整備工事報告書：1（平成 14 年～18 年度） | 篠山市教育委員会 | 平成 20 年 |
| 77 | 詳細 | 兵庫県立考古博物館研究紀要第 3 号 雲部車塚の研究 | 兵庫県立考古博物館 | 平成 22 年 |
| 78 | 詳細 | 史跡篠山城跡保存管理計画 | 篠山市教育委員会 | 平成 24 年 |
| 79 | 詳細 | 史跡篠山城跡整備基本計画 | 丹波篠山市教育委員会 | 平成 31 年 |

(7) 記念物（名勝地）

記念物（名勝地）のこれまでの調査の成果は表 4-8 にまとめられる。歴文構想策定時にはこれらの資料及び町史（篠山町史・丹南町史・西紀町史・今田町史）をもとにこれまでに把握された「歴史資産」を整理した。

これらの調査により、市域の記念物（名勝地）はおおよそ把握されてきたが、地域で大切にされている身近な「歴史資産」のより詳細な調査が必要とされる。

表 4-8 記念物（名勝地）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----|---------------------------------------|----------|---------|
| 1 | 把握 | 近代の庭園・公園等に関する調査研究報告書 | 文化庁 | 平成 24 年 |
| 2 | 把握 | 名勝に関する総合調査 — 全国的な調査（所在調査）の結果 — 報告書 | 文化庁 | 平成 25 年 |
| 3 | 詳細 | 令和元年度指定・登録 兵庫県文化財調査報告書（住吉神社庭園「住之江の庭」） | 兵庫県教育委員会 | 令和 2 年 |

(8) 記念物（動物・植物・地質鉱物）

兵庫県では、貴重な野生動植物等について調査・選定が行われ、兵庫県版レッドリストが作成されている。また、巨樹・巨木の把握調査も実施されている。これらにより、市域の記念物（動物・植物・地質鉱物）はおおよそ把握されてきたが、地域で大切にされている身近な「歴史資産」のより詳細な調査が必要とされる。

表 4-9 記念物（動物・植物・地質鉱物）の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----|-------------------------------------|-----|---------|
| 1 | 把握 | 兵庫の巨樹・巨木 100 選 | 兵庫県 | 平成 17 年 |
| 2 | 把握 | 兵庫県版レッドリスト 2011（地形・地質・自然景観・生態系） | 兵庫県 | 平成 23 年 |
| 3 | 把握 | 兵庫県版レッドリスト 2012（昆虫類） | 兵庫県 | 平成 24 年 |
| 4 | 把握 | 兵庫県版レッドリスト 2013（鳥類） | 兵庫県 | 平成 25 年 |
| 5 | 把握 | 兵庫県版レッドリスト 2014（貝類・その他無脊椎動物） | 兵庫県 | 平成 26 年 |
| 6 | 把握 | 兵庫県版レッドリスト 2017（哺乳類・爬虫類・両生類・魚類・クモ類） | 兵庫県 | 平成 29 年 |
| 7 | 詳細 | 兵庫県版レッドデータブック 2020（植物・植物群落） | 兵庫県 | 令和 2 年 |

(9) 文化的景観

本市において、文化的景観の把握調査はこれまで実施されていない。地域の生業や産業のつくりだす景観や、地域の歴史文化と密接に結びつく景観の把握調査が必要である。

(10) 伝統的建造物群

表 4-10 に示すように、これまで本市では篠山地区（城下町）、福住地区（宿場町）において詳細な調査が行われてきたが、全市的な把握調査はこれまで実施されていない。2 地区以外について、伝統的建造物群の把握調査が必要である。

表 4-10 伝統的建造物群の既存の調査成果

| | 分類 | 調査報告書名 | 発行者 | 発行年 |
|---|----|------------------------------------------|----------|---------|
| 1 | 詳細 | 篠山の城下町 | 観光資源保護財団 | 昭和 49 年 |
| 2 | 詳細 | 兵庫の町並—篠山・室津— | 兵庫県教育委員会 | 昭和 50 年 |
| 3 | 詳細 | 丹波篠山/その歴史・文化・空間の蘇生—兵庫県篠山町歴史的町並整備調査研究報告書— | 篠山町教育委員会 | 昭和 51 年 |
| 4 | 詳細 | 篠山市篠山伝統的建造物群保存対策調査報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成 16 年 |
| 5 | 詳細 | 篠山市福住地区伝統的建造物群保存対策調査報告書 | 篠山市教育委員会 | 平成 21 年 |

4-2-2 地域で大切にされている「歴史資産」の把握調査

本市では、歴文構想策定にあたって、平成 20 年（2008）度及び 21 年（2009）度に「歴史資産」把握調査を実施し、平成 22 年（2010）度に「歴史資産」のデータベース及び集落単位で整理したデータ（以下、「集落カルテ」という）を作成した。この際には、各自治会・出身者等を対象としたアンケート調査を実施し、市民が大切に思う「歴史資産」などの把握を行った。

また、令和元年（2019）度及び令和 2 年（2020）度には、各自治会へのアンケート調査を行い、前述の調査で把握された「歴史資産」の現況調査を実施し、「歴史資産」のデータベース及び「集落カルテ」の更新作業を実施した（調査の詳細は参考資料 2 参照）。

4-3. 保存・管理に係る取組

4-3-1 文化財保護法に基づく指定等の推進

本市教育委員会では、文化財保護法に基づく指定等への取組を進め、指定等文化財は、平成23年(2011)度末から令和2年(2020)度末までで11件増加した。

表 4-11 指定等文化財の推移

| 種 別 | | | 国 | | | | 県 | 市 | 合計 | |
|---------|-----------------|-------------------------|---------------------|-----------|----|-------------|-------------|-------------------|------------------------|---------|
| | | | 指定 | 選定 | 選択 | 登録 | 指定 | 指定 | | |
| 有形文化財 | 建造物 | — | 3 | | | 31→35 | 1 | 18 | 53件→57件 | |
| | 美術工芸品 | 絵画 | | | | | | 1 | 14 | 15件 |
| | | 彫刻 | 8 | | | | | 3 | 23→25 | 34件→36件 |
| | | 工芸品 | 1 | | | | 3→5 | 18→17 | 22件→23件 | |
| | | 古文書 | | | | | 1 | 14 | 15件 | |
| | | 歴史資料 | | | | | | 12 | 12件 | |
| | | 書跡・典籍 | | | | | | 2 | 2件 | |
| | | 考古資料 | | | | | 3 | 7 | 10件 | |
| 無形文化財 | 演劇・音楽・ 工芸技術等 | 演劇・音楽・ 工芸技術等 | 0→1 | | 1 | | | | 1件→2件 | |
| 民俗文化財 | 有形の民俗文化財 | 無形の民俗文化財に用いられる衣服・器具・家具等 | | | | | 3 | | 3件 | |
| | 無形の民俗文化財 | 衣食住・生業・信仰・年中行事等 | | | 1 | | 3 | 6→7 | 10件→11件 | |
| 記念物 | 遺跡 | 都城跡、社寺跡、古墳、旧街道等 | 2 | | | | 3 | 12 | 17件 | |
| | 名勝地 | 庭園・橋梁・溪谷・山岳等 | | | | | 0→1 | 1 | 1件→2件 | |
| | 動物・植物・地質鉱物 | 動物・植物・地質鉱物等 | 3 | | | | 4 | 9 | 16件 | |
| 伝統的建造物群 | 伝統的建造物群 | 城下町・街道集落 | | 1→2 | | | | | 1件→2件 | |
| 陵墓参考地 | | | (1) | | | | | | (1件) | |
| 合 計 | | | 17件→ 18件 (1件) | 1件→ 2件 | 2件 | 31件→ 35件 | 25件→ 28件 | 136件 →138 件 | 212件→223件 (1件)→(1件) | |

4-3-2 市民による身近な「歴史資産」の保存・活用

令和2年（2020）度を実施したアンケート調査（実施概要は表4-4参照）によって、各自治会（261自治会）での「歴史資産」の保存・活用の現状を把握した。主に意見のあった種別について、それぞれ『「歴史資産」の保存や継承のために取り組んでいること』、『「歴史資産」の保存・活用の現状』を表にまとめた（表4-12）。

自治会それぞれで「歴史資産」の保存・活用のための工夫がみられる。特に、「歴史資産」の活用については、小学校との連携、老人会との連携に力を入れているとの回答もあった。一方で、少子高齢化・人口減少の進行による人手不足・資金不足の声が多く上がった。また、少子高齢化・人口減少の進行により集落の存続そのものが難しく、「歴史資産」の保存・活用は考えにくいという意見も複数みられた。

表4-12 自治会アンケートの調査結果からみる「歴史資産」の保存・活用の現状（主な意見）

| 種別 | 「歴史資産」の保存や継承のために取り組んでいること | 「歴史資産」の保存・活用の現状 |
|---------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 有形文化財 （寺社・住宅等） | <ul style="list-style-type: none"> ・修理・修復の実施 ・空き家を飲食店や宿泊施設として活用 ・空き家バンクへ登録 ・掃除当番などを改革し住民の負担を軽減 ・破損した道標についてレプリカを作成し展示 | <ul style="list-style-type: none"> ・災害・火災・老朽化・交通事故等により消失・破損が進んでいる ・老朽化・空き家化の進行 ・寺社周辺の便益施設の整備が必要 ・寺社の無住化・兼任、所有者が不明の場合が増えている ・檀家・氏が減少している |
| 有形文化財 （美術工芸品） | <ul style="list-style-type: none"> ・社の統合などによりご神体を遷座し、管理しやすくしている | <ul style="list-style-type: none"> ・関連する文化が消滅した（多紀33所まわり等） |
| 有形民俗文化財 （御輿・山車等） | <ul style="list-style-type: none"> ・神輿本体・装備品の新調・修復の実施 ・大学や企業と連携した担い手の確保 ・お囃子の継承事業の実施 ・乗り子等の性別・年齢の制限の変更 | <ul style="list-style-type: none"> ・修理費の確保が困難 ・担ぎ手、昇き手不足により神輿が出せない ・乗り子（子ども）の親世代の理解と関心が得られない |
| 無形民俗文化財 （祭礼・行事等） | <ul style="list-style-type: none"> ・生活様式に合わせた行事の簡素化・統合・日程変更によって参加しやすくしている ・近隣集落や都市部の協力を得て人手を確保 ・補助金を活用した行事復活の取組（鱧切祭等） | <ul style="list-style-type: none"> ・行事の内容が変化（伊勢講→バス旅行等） ・行事の対象となる子供がおらず廃止している ・参加者が減少している ・予算の確保が困難 ・使用する材料の確保が困難（コズエ・タニシ等） |
| 無形民俗文化財 （生活文化等） | <ul style="list-style-type: none"> ・補助金を活用した伝統郷土料理講習会の実施 ・しめ縄づくりや餅つきなどを自治会行事として実施 | <ul style="list-style-type: none"> ・しめ縄や伝統料理の材料の確保が困難 ・子どもが生活文化に触れる機会が減少 |
| 記念物（遺跡） | <ul style="list-style-type: none"> ・実行委員会をつくり、整備事業（安全確保など）を実施 ・解説板を設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・PRが不足している ・整備・観光活用が不十分（隕石落下地等） ・発掘調査結果の地元への報告が不十分 ・遺跡や周辺施設の維持管理費用の確保が困難 |
| 記念物（名勝地） | <ul style="list-style-type: none"> ・整備事業（安全確保・展望確保・補強工事など）の実施 ・解説板を設置 | <ul style="list-style-type: none"> ・土砂災害や台風などへの対策が必要 ・周辺の樹木等の手入れ不足により視認性が悪くなった/道が荒れている |
| 記念物（植物・動物・地質鉱物等） | <ul style="list-style-type: none"> ・観察会を実施している ・植樹を実施し周辺の景観を向上させている ・助成金を活用した里山の資産の保存・活用 | <ul style="list-style-type: none"> ・枯死・焼失・倒木・伐採などによる消失 ・資産周辺の安全確保、見学エリアと保護エリアの明確化、見学者の駐車場の整備が必要 ・活動の後継者の育成・発掘ができていない ・樹木の周辺環境が変化している ・PRが不足している |
| 伝統的建造物群 | <ul style="list-style-type: none"> ・空き家を改修し、集落全体で農村民家を開始 | <ul style="list-style-type: none"> ・各個人での投資が少ない ・町並みを守る後継者の育成が必要 |
| 文化的景観 | (特になし) | <ul style="list-style-type: none"> ・竹の繁殖と猪による獣害によって景観が悪くなっている |

4-3-3 「歴史資産」の防災・防犯

「歴史資産」の防災・防犯について、これまで下記のような取組が行われてきた。

①重要伝統的建造物群保存地区における地区防災計画の策定

…木造建造物が密集している重伝建地区（篠山・福住）では、(1)地域住民の防災意識・防災力向上、(2)地区の防災力向上、(3)建物の防災力向上の3つに分類し、それぞれに対応策を立案した防災計画を作成している。

②丹波篠山市地域防災計画での位置づけ

…令和元年（2019）度に修正された地域防災計画において、「文化財の災害予防」が明記されている。地域防災計画では、施設整備等（火災予防、避雷対策等）、現地指導（現地巡回視察）、保護思想の普及及び訓練について国、県、市（教育委員会）、消防機関、文化財所有者及び管理者により具体的な事業計画を立てて順次実施することとしている。具体的に、本市では「文化財防火デー」に併せて、消防本部と消防団との連携強化、地域の防災意識の高揚を図ることを目的として消化訓練が行われている。



文化財防火デーの取組（令和2年（2020）1月25日）

③地域資料の整理・保存・電子書籍化

…中央図書館において、本市独自の資料である地域新聞を保存している。歴史文化を今に伝える貴重な資料として後世につなげるとともに、活用を促進するため電子化を進めており、令和元年（2019）度から11年度にかけ、計画的に地域新聞8種類（篠山新聞、篠山通報、篠山報知、篠山週報、篠柏新聞、多紀協同新聞、丹波ニュース、多紀新聞）の電子化を行う予定である。

4-3-4 景観計画に基づく「歴史資産」の保存に関する取組

本市は、丹波篠山の個性を生かした景観づくりを推進するため景観行政団体となり、市景観条例及び景観計画を施行している。この計画に基づき、地域計画課が主体となり地域の特性に応じた景観誘導を図っている（景観計画に関する詳細は21ページ参照）。

具体的には、歴史的な町並み・沿道景観の保全、地域の景観づくりの核となる建造物等の保全、地域の自主的な景観まちづくりの取組に関して以下のような支援メニューが設けられている。

① 景観重要建造物等修景補助

…景観法に基づき本市が指定した「景観重要建造物」及び「景観重要樹木」の維持保全に係る工事等について、経費の一部を補助している。現在までに指定されている景観重要建造物は表4-13のとおりである。

表4-13 景観重要建造物一覧（令和2年12月現在）

| 指定番号 | 建造物の名称 | 建造物の所在地 | 指定年月日 | 所有者 |
|------|----------------|-----------|------------|-----|
| 第1号 | 旧樋口家住宅 | 篠山地区（西町） | 平成27年9月29日 | 法人 |
| 第2号 | 大正ロマン館（旧篠山町役場） | 篠山地区（北新町） | 平成28年2月16日 | 市 |
| 第3号 | 中西家住宅（sasarai） | 日置地区（日置） | 平成28年2月16日 | 個人 |
| 第4号 | 澤山家長屋門 | 大芋地区（市野々） | 平成28年2月16日 | 個人 |
| 第5号 | 青山歴史村 | 篠山地区（北新町） | 平成29年8月25日 | 市 |
| 第6号 | 旧西垣家住宅 | 大山地区（大山上） | 平成29年8月25日 | 個人 |
| 第7号 | 小林家住宅 | 古市地区（古市） | 令和2年3月2日 | 個人 |

② 修景支援事業

…丹波篠山市景観計画に指定する歴史地区や沿道地区等（予定地区含む）における建築物等の修景に関する相談や、市民による景観形成の推進活動を支援するため、景観の専門家を派遣している。

③ 修景補助事業

…丹波篠山市景観計画における歴史地区や沿道地区等で景観形成基準に沿って建物などの形態、意匠、素材、色彩等を周囲の町並みに調和するように整備し、地区の景観形成に資する外観にする場合、外観の工事費の一部を補助している。

4-4. 活用に係る取組

4-4-1 「歴史資産」公開の取組

本市の指定等文化財のうち、彫刻や絵画などの美術工芸品や登録文化財の建造物等は、所有者（管理者）が寺社や個人であることなどから、市民が指定等文化財に触れることが困難であるものもある。また、未指定の「歴史資産」についても同様に、公開されていないものも多い。防犯や防災上の観点から「歴史資産」の公開には、多くの課題がみられるが、そのなかでも、次のような取組が進められている。

①文化施設による公開

本市では、「歴史資産」の公開展示施設として4箇所の文化施設が整備されている。「市立歴史美術館」では古代埋蔵資料や藩窯王地山焼などを展示公開、「篠山城大書院」では篠山城関連歴史資料の展示、「青山歴史村」では篠山藩主青山家藩政資料や絵図等の展示、「安間家史料館」では安間家に伝来した古文書やその他の史料を展示・公開している。そのほか、丹波古陶館では兵庫県指定文化財「古丹波コレクション」312点の展示・公開が進められている。また、各文化施設では特別展を開催して指定等文化財である美術工芸品などを展示公開している。

②丹波篠山ひなまつり

丹波篠山ひなまつりは、実行委員会形式で、地域のまちづくり協議会や自治会、観光協会等が参画して開催している。毎年、福住、城下町、日置、今田、丸山、雲部、市野々の各地域のほか、チルドレンミュージアムなどを会場にしている。丹波地方では、幕末の頃、素朴なぬくもりの土人形「稲畑人形」が生まれ、明治、大正と丹波地方のひな壇は天神人形を中心に親類縁者から贈られた色とりどりの土人形が飾られた。こうした伝統的な各家庭の祭りの意味を継承するため、まつりでは、家々に眠る稲畑人形の掘り起こし、その再現に取り組んでおり、市民や来訪者はひな人形を身近に鑑賞することができる。

③丹波篠山・まちなみアートフェスティバル

丹波篠山・まちなみアートフェスティバルは平成20年（2008）に開催されたプレイベントをきっかけに、河原町妻入商家群などを中心とした歴史的まちなみをユニークベニュー^{※1}として活用したフェスティバルとして、実行委員会形式で開催されている。同フェスティバルでは「町屋が美術館に変わる」をテーマとして、招待作家と本市ゆかりの美術作家を中心に建物内や屋外にアート作品を展示し、また「町屋の芸術学校」と題し作家のワークショップや講演会を開催している。建物所有者と作家が手を携えて作り上げる全国的にも例のない新しい形の祭典であり、本市の「豊かなまちづくり」につながる取組である。

※1 歴史的建造物等、会場とすることで特別感や地域特性を演出できる場所のこと。



丹波篠山・まちなみアートフェスティバル

4-4-2 指定等文化財周辺の整備事業

篠山重伝建地区や篠山城跡などの指定等文化財周辺については、景観まちづくり刷新支援事業等による道路の無電柱化事業や駐車場整備、また兵庫県の景観形成支援事業などによって建築物の外観修景事業など計23事業が平成23年(2011)度から平成30年(2018)度の8年間で実施され、庁内各課によって文化財周辺環境の整備による歴史文化を活かしたまちづくりが進められている(詳細は参考資料参照)。



市道大手線無電柱化事業 整備後の状況

4-4-3 歴史的建造物活用の取組

(1) 空き家活用支援制度の枠組

本市では、まちづくり部と政策部が事務局となって、定住促進等を目的とした空き家活用支援制度の整備が着実に進められている。空き家活用支援制度のうち、「空き家バンク」制度(丹波篠山暮らし案内所)は、市内にある空き家等の物件情報を登録・公開し、物件の有効活用を図ることにより、市への定住促進と地域の活性化を促進している。

(2) 古民家活用の取組

重要伝統的建造物群保存地区(篠山・福住)を中心に、市外の事業者やまちづくり協議会、市民等の多様な主体による古民家の修復・活用が進んでいるほか、丸山地区の「集落丸山」では2軒が宿泊施設として活用され集落内には古民家活用飲食店も開業している。こうした試みは、平成27年(2015)に本市が国家戦略特区に指定され、「歴史的建築物等に関する旅館業法の特例」が認められ、「24時間待機のフロント設置」義務も除外されたことが、宿泊施設としての利用につながっている(主な古民家活用事例は参考資料参照)。



篠山城下町ホテル NIPPONIA



ゲストハウス「森の風土」

4-4-4 「歴史資産」情報発信の取組

(1) 歴史文化基本構想を活用した観光拠点づくり事業

本事業は、歴文構想に基づき実施される文化財を中核とする観光拠点形成に資する総合的な取組を支援することにより、地域経済の活性化を図るとともに、我が国の文化財の価値を国内外に発信し、未来に繋いでいくことを目的としたものである。本市でも教育委員会が主体となって、平成29年(2017)度から取り組み、主に下記の5つの事業を展開してきた。

- ①「丹波篠山西京街道古地図散歩」推進事業…保有している古地図の調査、専門家との協議を経て、江戸時代の古地図の中を探索できるWebサイト「丹波篠山西京街道古地図散歩」を作成、平成31年(2019)4月に公開した。
- ②西京街道モニターツアーの実施…西京街道を活用して京都方面からの観光客を誘引するため、外国人モニターを募集し、これまでに計6回ツアーを実施した。モニターツアーをとおして、観光客目線から見た西京街道の観光ルートとしての価値、観光資源を発掘・検証した。
- ③西京街道ツアーガイドブック製作…ツアーモニター事業で得られたデータから、丹波篠山の歴史や文化を紹介し、観光のモデルコースを紹介したガイドブック “Visit Tamba Sasayama Saikyo Kaido ”を日本語・英語併記で作成した。
- ④住吉神社の駐車場整備とトイレの設置…観光拠点として福住地区を整備するため、住吉神社の駐車場とトイレを整備した。トイレはバリアフリー対応とした。
- ⑤住吉神社「住之江の庭」の再生と活用…丹波篠山市川原字木ノ下の住吉神社庭園「住之江の庭」は、昭和41年(1966)に、日本庭園研究者で作家である重森三玲の指導のもとに完成した庭園である。作庭について、「住吉の海景や波うつ景観をテーマとして神社に因む海島の表現を七五三的石組と蓬莱式石組を兼ねた抽象表現を目的とした」と重森自身が述べている庭園である。この庭園の修復にあたっては、篠山市西京街道拠点形成協議会(当時)の主催により、平成31年(2019)1月から2月にかけて、合計11回の修復ワークショップが開催され、延べ266名の参加者によって修復が完成した。作業内容は主として網干垣の復元、白砂敷の洗浄と補充、白波を表現する白モルタルの波型曲線と犬走りの修復が行われた。修復にあたっては、兵庫県名勝部門ヘリテージマネージャー連絡会、市内の工務店や左官の協力のもと文化財課が事務局となって運営された。



住之江の庭



住之江の庭再生ワークショップ



西京街道モニターツアー

(2) 日本遺産関連事業

平成27年(2015)に認定された地域型ストーリー「丹波篠山デカンショ節—民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶—」及び平成29年(2017)に認定されたシリアル型ストーリー「きっと恋する六古窯—日本生まれ日本育ちのやきものの産地—」を発信するため、商工観光課や総務課が主体となって、下記のような事業が行われてきた。

- ①**日本遺産丹波篠山電脳案内板導入事業**…総務課が主体となってAR等の先端技術を用いた案内板を、市内50か所に設置した。また、日本遺産を総合的に発信するためのPRパンフレットを5万部作製した。さらに、プロモーションサイトも開設した。
- ②**「日本遺産認定記念フォーラム」や講演会の開催**…商工観光課が主体となって、市民が「日本遺産」を身近に感じ、市民をあげて魅力あふれるまちづくりを進める契機とするため、フォーラムや講演会を開催した。
- ③**青山歴史村(デカンショ節体験施設)整備事業**…青山歴史村は、篠山藩主青山家の別邸であった「桂園舎」と呼ばれた建物を中心にして、3棟の土蔵と長屋門から構成される。同施設内には漢学書関係の版木1,200余枚、篠山城石垣修理伺い図面、藩政始末略、印判、ねずみ草子等、江戸時代の資料を展示している。内庭には石造金櫃、篠山藩士で和算学者「万尾時春」の顕彰碑、「篠山城惜別の碑」などを屋外展示している。さらに、篠山藩政文書、青山家ゆかりの品々や篠山藩校「振徳堂」の蔵書なども所蔵し、江戸期の政治、文化、生活の実態の体感拠点となっている。日本遺産への認定を契機に丹波篠山の歴史と文化を歌詞にのせて歌った「デカンショ節」をはじめ、「日本遺産のまち 丹波篠山」の歴史・文化・自然・特産品等を紹介する「丹波篠山デカンショ館」として、改修事業に取り組み、青山歴史村の入口(展示スペースとスタッフ駐在スペース等)部分とデカンショ館の内装工事、VR望遠鏡の設置などを実施した。また、デカンショ館前に高さ165cmの踊り子の人形「デカンショモニュメント」を設置した。関連事業として、遊歩道「デカンショの小径(こみち)」が同館前と市役所隣の市立たんば田園交響ホール前の交差点を結ぶように整備され、この整備に伴い、旧篠山藩庁の通用門だった「篠山地方役所門」が、篠山郵便局の横からこの交差点の近くに移設された。
- ④**丹波篠山日本遺産めぐりツアー**…商工観光課が主体となって、新たな魅力の発見・発掘、既存の地域の魅力の新たな活用として、日本遺産の構成文化財やその他の文化財をめぐるツアーを開催した。主に市民を対象にし、丹波篠山の魅力を体感できるツアーとした。
- ⑤**六古窯に関連する事業**…商工観光課が主体となって、六古窯サミットの開催、紹介HPの整備、紹介ビデオ、タブロイド型パンフレット作成、最古の登り窯付近への看板設置を実施した。
＜関連＞・「丹波立杭焼」の振興と丹波篠山市観光の拠点施設である「陶の郷」内の窯元横丁について、平成28年(2016)9月にイベントコーナーを改装リニューアルした。
・本市がユネスコ創造都市ネットワーク(クラフト&フォークアート分野)に「食と器」をテーマに加盟したことを受けて、市内の飲食店などが市内産の食器を購入する際に、経費の一部を助成する「食と器の出会い事業補助金」を実施している(平成27年(2015)度～)。

- ⑥「日本遺産のまち」魅力発信アイデア実現補助金事業…商工観光課が主体となって市民から新たな「日本遺産のまち」PR のアイデアを募り、独創的・先進的な事業に対して補助金を交付した。伊能忠敬の足跡を街道筋に残す標柱の設置・案内マップ・冊子の作成、ウォーキングイベント等を実施する事業や、「西尾武陵生誕 250 周年顕彰俳句ラリー大会」事業、篠山まるごと井 PR 事業などが採択された。
- ⑦日本遺産のまちづくり応援事業…商工観光課が主体となって、市民自らが、日本遺産構成文化財や本市の有形無形文化財、伝統工芸品、まちなみなどの地域資源を活用することにより、日本遺産への理解を深め、愛着や誇りをもつほか、情報発信による観光客誘致など地域の活性化につなげるための事業を実施した。地元高校生による『丹波焼+黒豆味噌』ブランドの確立を目指した「今田と福住をつなげよう！伝統工芸と地域特産品の融合」や、「福住町並み案内人グループ日本遺産研修講座」等が採択された。

(3) ホームページ等における情報発信事業

本市の「歴史資産」に関する情報は、「丹波篠山市公式観光サイト」により、寺社や文化施設、史跡などの概要ならびに春日能や住吉神社水無月祭などの行事、食文化に関連する土産品情報、古民家を活用したゲストハウスなどの宿泊施設について日本語で発信しており、自動翻訳機能により英語、ドイツ語、フランス語、韓国語、中国語で閲覧可能である。また、観光マップやボランティアガイド、レンタサイクルの情報なども掲載している。また、訪日旅行客をターゲットとした観光情報サイトでは、多国籍の編集者により翻訳された「英語」、「中国語」、「タイ語」の記事が掲載されており、本市の魅力が発信されている。

その他、近年は、インスタグラムや Facebook といった SNS を活用した情報発信も活発に行っている。

(4) パンフレット「丹波篠山ロマン街道」発行事業

日本遺産のまち、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟都市の本市には、緑豊かな里山や田園風景、歴史的な町並みを始め、それぞれの地域には自然や歴史などの魅力的な「歴史資産」が数多くある。本市では、これらの魅力を広く情報発信し、市民のふるさと意識の醸成や来訪者の体感・交流に繋げていくため、自然、歴史、町並みなどをテーマごとに街道で結び紹介する「丹波篠山ロマン街道」を発行している。これまでに、「さくら街道」、「紅葉街道」、「丹波篠山のいきものたち」、「義経の道」、「祭礼の道」などが発行されている。

4-5. 担い手に係る取組

4-5-1 人づくりに係る取組

本市では、子どもたちを対象としてふるさと学習を進めており、平成28年(2016)度からは毎年4校の小学校の学習効果をクローズアップしてまちの魅力を順次冊子で発表している。令和元年(2019)度は岡野小学校、多紀小学校、小川小学校(丹波市)、大路小学校(丹波市)の4校で「まちの自慢発信事業」を進め、岡野小学校では「岡野隕鉄」を、多紀小学校では「笹見四十八滝」や「稻荷神社」、「長福寺」、「藤坂の大カツラ」などを対象としてその魅力を発信している。

また、令和2年(2020)度「丹波篠山の教育」の中には、「自然遺産に学ぶ教育の充実」に係る事業である小中学生を対象とした「脊椎動物化石保護・活用事業」や、「ふるさと丹波篠山を愛する心の育成」に係る事業であるふるさとガイドブックを活用した地域学習「郷土を知る取組」、食文化を伝承・創造する人材を育成する「郷土味学講座の実施」などの事業が盛り込まれている。

丹波篠山市立中央図書館では、神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターの指導の下、地域資料の整理を行う「地域資料整理サポーター」が活動している。この活動は、整理が進まず保管されたままになっている地域資料に対して平成24年(2012)年から始まった。平成24年(2012)度には市民を対象に「まちづくり地域歴史遺産活用講座」及び「地域資料整理サポーター養成講座」を実施し、古文書を扱うことのできる人材の育成を目指した。平成25年(2013)度には「地域資料整理サポーター」が結成され、神戸大学指導の下、閲覧希望の高い地域資料から整理作業が進められた。さらに、平成26年(2014)度には図書館内にサポーター活動室が開設され、毎週水曜日にサポーターによる自主的な目録カードの作成やデータ化、翻刻作業が進められているほか、神戸大学から専門の指導者を招いて年6回の実践活動講座が開催されている。そうした活動の成果もあり、下図に示すように郷土資料の蔵書数は年々増加している。

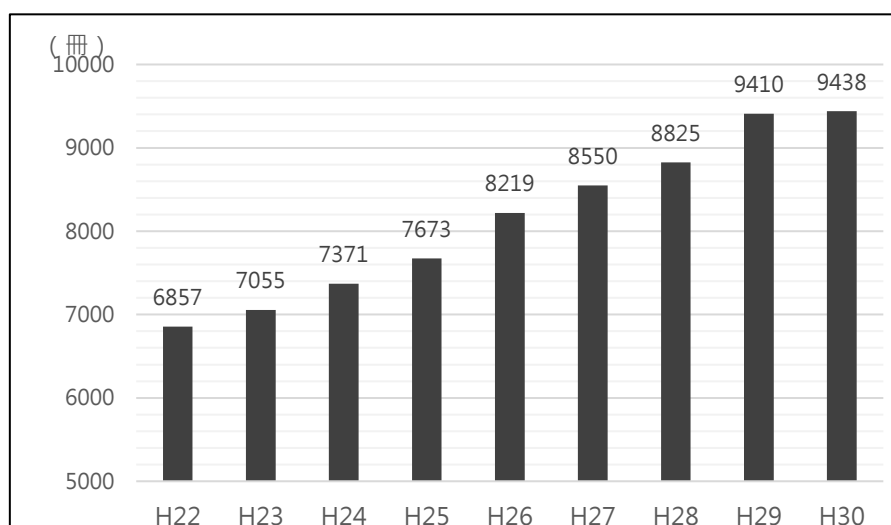


図4-1 郷土資料の蔵書数の推移

4-5-2 「歴史資産」修理・継承の取組

本市では、「歴史資産」の保存や修復、活用が着実に進んできたといえ、全国的なモデル都市としても評価されており、歴文構想策定の大きな成果といえる。そのうち、近年継続的に実施されている取組の概要は下記のとおりである。

① NPO法人による古民家等修復・活用の取組

NPO法人町なみ屋なみ研究所（以下「町屋研」という。）では伝統的な町並み景観を守るため、平成17年（2005）より、ボランティアの協力も得て古民家の再生と活用を進めている。古民家の保存活動と伝統的な町並みの価値を上げるための活動の両立を目指しており、古い町並みに人を呼びこむイベントの開催、まち歩きの促進、再生技術などの地域への普及、古民家再生ボランティア活動、古民家が壊されないように所有者等へ働きかけ、再生、活用の提案と実行、意匠やコスト等モデルとなる改修事例づくりと普及等に取り組んでいる。これまでに、300回以上の古民家再生ボランティア作業を開催、約30棟の再生に関わってきた。ボランティア活動は、伝統的な技術が学べることや、参加者のストレス発散になるなど好評で、市内外から大学生や会社員、シニア世代など様々な人が参加している。



活動の様子

②大山宮天然物保存会による天然記念物管理の取組

丹波篠山市大山宮の追手神社に立地する国指定天然記念物のモミならびに夫婦イチョウの周辺の清掃活動を大山宮天然物保存会が進めている。また、今から50年前、暮らしの中に当たり前にあった「アズマイチゲの群落」が天然記念物に指定された後、この地区には、セツブンソウ、ユキワリイチゲ、セリバオウレン、キクザキイチゲなどの貴重な山野草も自生していることから多くの愛好家が訪れるようになった。しかし、その貴重な山野草の生息数が減ってしまったため、地区の自治会と大山宮天然物保存会が保護活動を進めている。具体的には、来訪者のための観察路整備、案内板の設置など天然記念物周辺の環境整備を継続的に進めている。また、三世代交流を目的として、地域の伝承講話やパンフレット「ふるさとの山野草」の発行など幅広い活動を展開している。



追手神社のモミ

4-6. 体制づくりに係る取組

本市では、市民による「歴史資産」保存・活用の取組は各地区で進められているが、これらの取組は財政的基盤や人的基盤が十分ではないため、引き続き「まちづくり事業」の継続を進めるだけでなく、取組の成果を共有する制度、市民による取組の支援制度などの充実が必要とされる。そのなかでも、下記に示すような大学等との地域連携協定などの締結により、地域づくりが進められている。

(1) 庁内連携の状況

本市の指定等文化財は、修景・修理等の保存・整備事業が地域計画課や都市整備課等において文化財課と連携して行われている。さらに日本遺産事業や観光への活用、地域づくりへの活用等が企画課や商工観光課、市民協働課等が主体となって進められている。また、防災・防犯については市民安全課により地域防災計画への指定等文化財の位置づけが行われている。このように、各課で役割分担・連携しながら「歴史資産」に係る各種取組が進められているが、一元化された連携体制は未整備である。

(2) 神戸大学大学院農学研究科地域連携センターとの連携

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ+丹波篠山フィールドステーションは、平成28年(2016)に農村地域の課題解決と発展のため、現場発のイノベーション、地域に根ざした教育と研究、地域の人材育成に取り組む拠点として活動を推進している。この活動は、平成19年(2007)に神戸大学と本市の地域連携協定を締結して始まり、神戸大学大学院農学研究科地域連携センターが中心となっている。平成26年(2014)からは、大学生が本市に住み込み、地域プロジェクトに取り組む「半学半域」型の地域おこし協力隊制度を導入して活動を展開しており、本市で活動する学生団体のメンバーは計150人ほどにのぼる。協力隊員は当初は学生であったが、現在は起業を希望する社会人も含まれる。こうした活動の蓄積の上で平成28年(2016)から、神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボを拠点とする取組が開始した。その後、総務省の「地域おこし協力隊事業」で協力隊員として委嘱を受けた神戸大学生と、そのコーディネート業務をしていた神戸大研究員の計5名によって、平成27年(2015)3月3日に合同会社ルーフスが設立された。同会社は、ローカルベンチャー企業として、設立以後様々な事業にトライしてきたが、現在は「ささやま寺子屋塾」事業(小中学生を対象とした学習塾)が主要な事業で平成31年(2019)4月現在、社員は2名、その他の大学生アルバイトを雇用している。同塾は大山の西尾家住宅、大芋の豊林寺、旧福住小学校の4箇所を教室として活用している。

(3) 通信制「星槎大学」との連携

丹波篠山市、丹波市両市の市民有志が、神奈川県に本校がある通信制の「星槎大学」と連携協定を締結し、平成28年(2016)3月末に閉校した旧大芋小学校(丹波篠山市中)の一室を同大学のスクーリング会場にして、さまざまな世代、地域の学生が集って学ぶ「丹波コミュニティカレッジ」を開校した。垂水でフリースクール「まめの木」を運営する一般社団法人「カラフルビーンズ」が大学との協定の受け皿となり、スクーリング会場の一つとして、「丹波コミュニティカレッジ」の開校が実現した。スクーリング開催時に旧大芋小を活用して講義を開くほか、講義以外にもさまざまなプログラムを企画し、学生同士のつながり、学生と地域とのつながりも創出することが目標とされている。